

連載

青木元の「気象エッセイ」

# 人生色々 お天気色々

## 第10回 地震の揺れを感じない津波

本年元日、能登半島で最大震度7を観測する「令和6年能登半島地震」が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

元日の能登半島地震では、大津波警報も発表され、日本海側沿岸各地で津波が観測されました。能登半島の震源

近くでは、地震発生直後に津波が来襲したと考えられます。あらためて、海岸付近で地震による大きな揺れを感じたら、それが自然の発した津波警報だと思って、気象庁の津波警報を待たずに高台等に避難することが重要です。

能登半島地震では、地震の揺れをほとんど感じていない北海道の沿岸にも

津波が来ました。今回の話題は、地震の揺れを感じないのに津波が来る話です。

### 遠い地震による津波

海外で発生した地震や、国内で発生した地震でも自分のいる場所から遠く離れたところで発生した場合には、地震の揺れを感じません。しかし、津波は海中を伝わり、地震の揺れよりも遠くまで伝わります。場合によつては、一九六〇年のチリ地震津波のように、地球の裏側の南米チリからの津波が伝わってくることもあります。こういった場合でも、気象庁では国内外の地震を常時監視していま

うな大きな地震が発生すれば、津波警報等が発表されます。このため、地震の揺れを感じなくても、津波警報等を見聞きしたら、すぐに高台等の安全な場所に避難することが重要です。

### 火山活動に伴う津波

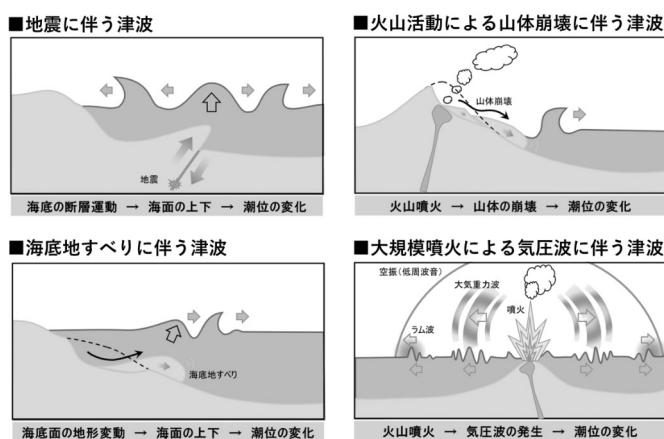


図1 地震や火山現象等に伴い発生する津波(図は気象庁HPより)

仙岳では、一七九二年の火山活動に伴う山体崩壊で、大量の土砂が有明海に流入して津波を起こし、対岸の熊本県で多数の死者が生じました。これは「島原大変肥後迷惑」と呼ばれています。これら

の火山活動に伴う津波、あるいは海底火山の噴火や海底地すべりに伴う津波は、状況の把握や予測が極めて難しいため、ほとんどの場合、津波警報等の発表は津波が観測されてからとなります。

また、大規模な火山噴火が発生した際には、空気中を伝わる気圧波によって津波が発生することもあります。二〇一二年一月には、日本から遠く離れた南太平洋トンガ諸島のフンガ・トンガ・フンガ・ハアパイ火山で発生した大規模な噴火により、日本でも津波が観測され、津波警報等が発表されました。道内では、浜中町霧多布港で一〇〇センチの津波を観測するなど、太平洋側を中心各で津波を観測しました(図2)。津波には勢いがありますので、たとえ高さ三十七センチの津波でも、その中に入つてしまえば足をすくわれて流されてしまい

ます。この津波の発生原因を後日解析した結果、通常の津波のように海中を伝わってきたわけではなく、火山の爆発の衝撃で空気中を伝わってきた気圧波が、海面を押し下げるなど変化させながら日本に到達したものでした。このような事例の頻度は高くないものの、気象庁では、海外も含めて大規模噴火が発生し